

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

和語動詞が前接する「化」の使用動態について：  
新語「見える化」を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-11-13 キーワード (Ja): 「化」, 新語 キーワード (En): 作成者: 谷口, 悠 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/0002000357">https://doi.org/10.15084/0002000357</a>

## 和語動詞が前接する「化」の使用動態について —新語「見える化」を中心に—

谷口悠（同志社大学文学研究科博士後期課程）

### 要旨

新語「見える化」の使用動態を通時的に分析し、その発生と使用増加過程を明らかにした。1990年代には製造業の品質管理における専門用語として使用され、2000年代以降は多岐にわたる文脈で用いられる一般用語へと変化した。「見える化」の調査・分析から、その使用増加要因に「ジャンルの多様化」「対象語の広範化」「接尾辞の通俗化」があることを示す。

### 1. はじめに

本稿で対象とする新語「見える化」は、次のように使われる（下線等は引用者による）。

- (1) コミュニケーションの中での「見える化」とは、社外外の、経営、顧客、オペレーション、ナレッジ（知恵）に関する情報をすべて「見える」ようにすることだ。（BCCWJ サンプル ID:PB53\_00138 三坂健（著）『コミュニケーションのノウハウ・ドゥハウ』）

(1) では、「見える化」は、情報をあらゆる側面から目にできる形にすることを指している。

従来、「化」は接尾辞と捉えられ、「化」の前に結合する品詞研究や「化」の使用の通時的研究がされてきた。しかし、(1)のように、近年見られる和語動詞が前接する「化」の用法に関する研究は、それほど進んでいない。そこで、和語動詞が前接する「化」のうち、「見える化」に焦点を当て、使用ジャンルや対象語の分析を加え、出現時期と意味の特定を行う。

こうした分析を通して、新語「見える化」の使用増加要因を考える。筆者はこれまで新語の発生・増加要因について、「自分ごと」（谷口 2024a）「自分軸」（谷口 2024b）を例に考察してきた。これらは共通して、「模した形の使用」が新語増加要因にあると考えられた。「模した形の使用」とは、新語を基に、さらに新語が創出されて広まり、元の新語の使用頻度も向上することである。「見える化」も、「模した形の使用」が確認される（第5節）が、本稿の分析を通して、「見える化」においてさらに別の使用増加要因を見出すことを目的とする。

「見える化」の用例を収集するために、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（BCCWJ）を用いて、文字列検索「見える化」を行ったところ、39件ヒットした。しかし、同一書籍内での用例が全体の約9割<sup>1</sup>を占めた。さらに、「昭和・平成書き言葉コーパス」（SHC）において、文字列検索「見える化」を行ったが、1例しか見られなかった<sup>2</sup>。これらから、経年の使用変化を調査するのは困難であると判断した。そのため、用例収集には主に、大宅壮一文庫「WebOYA-bunko」（OYA）を用いる。OYAは、新語を量的に収集でき、トレンドとそれ以降の使用を対照できるという特徴（大谷 2021）がある。また、初期の使用例を検索するのに有効な「国立国会図書館デジタルコレクション」（「デジコレ」）も用いる。

<sup>1</sup> 吉原靖彦（2005）『仕事がかんたんうまいく「段取り」の教科書』に18例、三坂健（2005）『コミュニケーションのノウハウ・ドゥハウ』に16例見られた。

<sup>2</sup> テインセイ大統領は、「二〇一五年」に勝利するために民主化の恩恵の「見える化」を是が非でも進めたい。（後略）（SHC サンプル ID 80M 文春 2013\_13084 『文芸春秋』）

## 2. 「化」についての先行研究

接尾辞「化」を取り上げた先行研究は多くある。その中でも、「化」の意味や前接する品詞に言及した、野村（1978）、水野（1985）、田窪（1986）、曾（2015）、趙（2013、2016）が注目される。

野村（1978）は、動作性、結果の状態を持つ用言系の語基に「化」が付きにくいと指摘している。水野（1985）も、「化」と用言語基との結合は少ないとしたうえで、「化」をつけることで変化の意味が加わるとしている。田窪（1986）によると、「化」に和語動詞が付くことは、その場限りの臨時的な語ではありうるという。曾（2015）は、水野（1985）と同様に、「化」は「ある状態に変化する」という意味を添加すると主張している。趙（2013）は、日本語の「～化」が、中国側の古典語の転用から始まり、接尾辞化した結果、「化」に地名やカタカナ語、和語も前接するようになったと説明している。趙（2016）は、『分類語彙表』にある「～化」の例を調査し、「化」の前接要素に用言類は見られないと指摘している。

このように、「化」は基本的に状態変化を表し、和語の用言に付くことはほとんどないとされてきた。しかし、趙（2016）は、和語の用言が「化」に前接し、可能な状態への変化を表す新しい用法が近年出現していると述べ、その例に「見える化」をはじめ、「理解る化」「直せる化」「言える化」（ITプロジェクトに関係）を挙げている。ただし、例を挙げるだけで、新用法を詳細に分析したとは言えない。

そこで、本稿では、新語「見える化」に焦点を当て（5.3 で示すように周辺事例も見る）、その使用状況を調査・分析することで、新語の使用増加要因を考察する。

## 3. 新語「見える化」に関する言説

本節では、「見える化」に関する社会的認識について確認する。まず、世論調査を通じて「見える化」についての言語意識を確認し、次に、「見える化」を取り上げた言語記事（新野2022）や専門家の見解を検討する。そのうえで、岡田（2022）を参考に、国語辞典類における「見える化」の扱いを分析し、この語が近年注目を集めていることを示す。

### 3.1 「見える化」の言語意識

「見える化」の言語意識を世論調査の結果から分析し、この表現の受容状況を見てみよう。

令和3年度「国語に関する世論調査」（2022年1月調査）問10において、「「実態などを分かりやすく示すこと」を、「見える化」と言うことがありますか」という質問がされている。その結果、「使うことはない」という回答率が69%、「使うことがある」という回答率は27.6%であったことが報告されている。年代別には、「使うことがある」という回答率は、30代で最も多く36.8%であり、40代、50代も30%を超えるが、10代と70歳以上が16%とほかの世代と比べて低い。また、「見える化」をほかの人が使うのが「気になりますか、それとも、気になりませんか」に関する質問もある<sup>3</sup>。その結果は、「気にならない」という回答率が56.3%、「気になる」という回答率は40.3%であり、年代別には、10代と70歳以上がほかの世代よりも「気になる」の回答率が高い（10代で60.8%、70歳以上で52.9%）。

この調査結果は、「見える化」の使用が完全に浸透していない段階にあることを示唆している。10代で「気になる」という回答率が高いのは、ビジネス世界に接触しないためであ

<sup>3</sup> 毎日新聞校閲センター（2023）でも同様のアンケート調査がされており、「気になる」という回答は6割を超えている。このアンケートは無作為抽出でなく、年代別の回答者数も不明だが、「気になる」と回答する層が一定数見られることは注目に値する。

ろう。逆に言えば、30代から50代で「気になる」という回答率がそれほど高くない（30%台）のは、ビジネス用語の「見える化」に接する機会が多いからだと推察される。

### 3.2 「見える化」を話題にした言説

まず、「見える化」の言語記事（新野 2022）について述べる。『朝日新聞』に「見える化」を取り上げた記事が見られる（／は改行を示す）。

- (2) 「見える化」ということば、最近よく見かけませんか？／例えば「何に時間を割いているかわかりやすく示す」意味で「時間の使い方を見える化する」などと用いられます。（中略）言語学が専門の加藤重広・北大大学院教授は「漢語につくことが多い接尾語『化』が、和語の『見える』についているのは珍しい。文法的には違和感があるかもしれないが、それがインパクトを生んでいる」といいます。  
 （「ことばの広場 校閲センターから）見える化」『朝日新聞』2015年10月7日朝刊）

この記事からも「見える化」が近年目にするようになった新語であることが窺える。これより早く、読売テレビ元アナウンサーの道浦俊彦氏が「見える化」について、「意味はわかりやすいけど、こなれていない感じ」が、思いっきりするなあ。」と述べている（ことばの話 3458「気づき」2008年12月22日）。この記事から半年後（ことばの話 3635「見える化」2009年6月10日）にも、「リコー」のコマーシャルで「CO2 見える化プロジェクト」を放送していたことを紹介している。これを受けて、「企業サイドでは普通の言葉になっている」が「あくまで「業界用語」だと思う」と述べ、2009年6月10日時点での Google 検索件数 107 万を根拠に、ネット上ではすっかり定着していることを指摘している。

次に、日本語学研究者による言及を見よう。今野真二氏は「見える化」を、漢語「カシ（可視）」をわざわざ和語で置き換えて別の語をつくったと捉え、次のように述べている。

- (3) 「わざわざ」つくらなくても、と思わないでもない。（中略）「わざわざ」あるいはもう少し強くいえば「わざとらしさ」が目立つ時代だと感じることがある。  
 （今野真二（2019）『日日は日本語』82頁）

つまり、現代日本語社会は「わざとらしさ」の風潮があることを指摘している。「可視化」の初出は1926年<sup>4</sup>、「見える化」の初出は1990年代（第4節）であることから、今野氏の指摘するように、「見える化」は「わざわざ」作られたと考えてよい。

### 3.3 国語辞典における「見える化」の記述

国語辞典における最も早い「見える化」の記載は『大辞泉』（第2版、2012年）である。「見える化」に言及しているものは、7種類9冊であった。以下、その詳細を示す。

- (4) ①「可視化」①に同じ。「大気の流れを一する」②（特に企業活動で）業務の流れを映像・グラフ・図表・数値化によってだれにも分かるように表すこと。問題の共有・

<sup>4</sup> 空間的特性によって時間的音楽に反し、天使、悪魔、人間、神々、獣、草木等の形像の可視化が許されてゐるから。（成瀬無極「海潮音」『饗宴』2:1）

- 改善に役立つとされる。可視化。「作業課程を一する」(『大辞泉』(第2版、2012年))
- (5) ①ひと目でわかる形にあらわして、問題解決や業務の効率化に役立つ。②情報をおかさず、何がおこなわれているかが、だれにもわかるようにする。  
(『三省堂国語辞典』(第7版、2014年))
- (6) 見えるようにすること。可視化。問題点などを視覚的にとらえられるようにすること。  
[自動車の生産管理方式に由来する語] (『大辞林』(第4版、2019年))
- (7) 動向や問題点、計画などを、常に意識できるように視覚化して表示すること。「業務の一」  
(『岩波国語辞典』(第8版、2019年))
- (8) 目で見えて事態・状況が理解できるようにすること。可視化。特に、企業の業務や生産現場で進行・工程・現況・目標・課題などを視覚的に配置して誰も見られるようにすること。「工場の一で業務改善と効率化をはかる」  
(『新明解国語辞典』(第8版、2020年))
- (9) [新] 実態や情報などを客観的に把握できるように視覚化すること。可視化。「業務実態の一」  
(『明鏡国語辞典』(第3版、2021年))
- (10) ①情報を、だれにもわかる具体的な形にして示すこと。②何がおこなわれているかが、だれにもわかるようにすること。(『三省堂国語辞典』(第8版、2022年))
- (11) 可視化。[くだけた言い方] (『三省堂現代新国語辞典』(第7版、2024年))
- (12) 1「可視化1・2」に同じ。「大気の流れを一する」2情報や物事の全体が、誰にでも分かるようにすること。特に、企業活動で、業務の流れを映像・グラフ・図表・数値などによって誰にでも分かるように表すこと。問題を共有し、改善するのに役立つとされる。可視化。「作業課程を一する」  
(『デジタル大辞泉』2024年8月6日確認)

複数の国語辞典が安定的に「見える化」に言及するのは、2020年代前後であることから、少なくとも2010年代以降に現代日本語において「見える化」は、安定的に使われるようになったと見なされていることが分かる。ただし、本稿執筆時点(2024年8月)では、「見える化」に言及する国語辞典は多くはない。それゆえ、「見える化」は、本稿執筆時点では、完全に一般的な表現とは言えず、その過渡期であると考えられる。

『大辞泉』(第2版)『デジタル大辞泉』の補説に「ビジネス用語<sup>5</sup>としては「見える化」、一般には「可視化」が多く使われる。」という記載がある。また、(11)の「見える化」の語釈に「くだけた言い方」とある。これらの記述が妥当であるかを判断するには、「見える化」について使用ジャンルを調査することが必要である。

第3節から、「見える化」は完全に一般的な表現ではないが、新語として耳目を集めてきたことが分かる。しかし、その具体的な使用実態は明らかではない。そこで次に、「見える化」がどのようなジャンルに、どのような文脈で使用されているかを観察してみる。

#### 4. 「見える化」の初期(1990年代)の使用状況

本節では、「見える化」の初期の使用状況を分析する。趙(2016)は、「見える化」の初出を2003年としているが、「デジコレ」を調査した結果、初出は(13)の1992年まで遡れる

<sup>5</sup> 『平成の新語・流行語辞典』の「見える化」の項にも、「企業や組織における財務、業務、戦略などの活動実態を具体化し、客観的に捉えられるようにすること」とある。

ことが分かった。

- (13) 品質管理の推進ステップとキズ発生件数を見える化 (M-Q マップの改善) し、わかりやすくした (「プラントエンジニア」24:5 1992年、32頁)

(13) は、作業の流れの中で「見える化」が使われ、キズの発生が多い部位に対する対応段階を図示して、キズの発生を抑えようとしている。(13) の出典「プラントエンジニア」に「見える化」が頻繁に用いられている<sup>6</sup>ことから、「見える化」は製造業の品質管理の専門用語として認識されていたと考えられる。(14) から (17) に 1990 年代の用例を挙げる。

- (14) PM [注：プロジェクトマネージャー] では成果はもとより、やらなければならないことなどもできるだけ目に見えるようにする“見える化”ということを積極的に進めている。 (「品質管理」44:7 1993年、53頁)
- (15) 潜在危険箇所にラベルを貼り見える化を実施 (「鍛造技法」18:55 1993年、27頁)
- (16) このシステム [注：ライン管理サービス機能] は、(中略) 操業の「見える化 (リアルタイムで可視化され、判断に使える)」を象徴するものである。 (「鉄鋼界」47:2 1997年、50頁)
- (17) このこと [注：安全活動評価制度を導入すること] で安全運動の見える化 (数値化) ができ、活動を押し上げることへもつながった。 (「安全」50:1 1999年、55頁)

(14) は、必須事項を明確にすることを「見える化」と呼んでいる。(15) は、危険箇所を目視できるようにすることを「見える化」で表現している。製造現場の安全を保障する点で、(13) と同様に、作業の流れの中で、すなわち、作業工程的な観点から「見える化」が使われている。(16) (17) を見ると、「見える化」が同義の語で言い換えられている。(16) は、「見える化」が「可視化」と同義で使われることが初期段階からあったことを示している。(17) の「見える化」は、「数値化」と同義で使われているが、労働災害を防止するために行われたものであり、現場の安全確保に関わる点で、(13) (15) と共通している。

以上より、「見える化」は 2000 年代より前にすでに文献上に見られ、製造業におけるリスク管理の文脈で使用されていたことが分かった。「見える化」は、「可視化」や「数値化」と同義で使われる例が見られるが、初期の使用例から、「組織内の作業工程における問題点・課題を明確に示すこと」を示す専門用語として発生したと考えられる。

## 5. 2000 年代以降の「見える化」の使用展開

### 5.1 「見える化」の流行

専門用語として発生した「見える化」は、2000 年代以降にどのように使用されているだろうか。OYA において「見える化」で文字列検索を行い、初めて用例が確認された 2004 年から 2024 年 (6 月 30 日) までの年代別の使用状況を調査した。その結果が表 1 である。

---

<sup>6</sup> 「プラントエンジニア」は、各種製造業における工場や生産設備の計画・運転・管理に携わるエンジニア向けの専門誌である。「見える化」/タイトル「プラントエンジニア」/出版年月日「1992 年から 1999 年」で「デジコレ」を検索したところ 43 件ヒットした。

表1 OYAにおける「見える化」年代別用例数推移

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
用例数	1	6	14	12	12	24	27	30	34	27	36
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	総計
	35	23	34	34	37	23	29	29	30	17	514

表1より、「見える化」は、2000年代半ばから2010年代前半にかけて使用数を伸ばし、2010年代後半以降、安定して使用されていることが読み取れる。山下（2023）は、2005年に遠藤功『見える化 強い企業をつくる「見える」仕組み』が単行本として出版され、「見える化」が注目される契機となったとしている。第4節の調査と合わせると、2000年代半ばに「見える化」という表現が社会的に発見されたと言えよう。

また、『現代用語の基礎知識』に「見える化」が2008年に初掲載され、以後2015年まで掲載され続けた。これはOYAにおける「見える化」の用例数が伸びている時期と重なる。『現代用語の基礎知識』は、社会的に重要な新語をまとめた用語辞典であり、「見える化」が社会的に認知されたという評価を表している。次例（18）の「見える化」の話し言葉の使用例から、この時期に社会的に認知されていたことが窺われる。

- (18) 今、民主党は、予算の見える化ということで、全党を挙げて数字を一つ一つ洗いざらい見せていただいております。そうすると、やはり世の中が見えてくるんですね。今、これははやりの一つの言葉でございますけれども、見える化すると、どんどんどんどんいろいろな人に見てもらおう（後略）  
（第164回国会衆議院予算委員会 伴野豊氏（当時45歳）発言 2006年1月30日）

(18)の「はやりの一つの言葉」という発言から、「見える化」の流行が読み取れる。(18)は「国会会議録」における初出例であり、これ以降「国会会議録」において「見える化」の使用が確認される。このことは、流行していた「見える化」が「国会会議録」のような公式の場においても使われ、「見える化」の普及や一般化が進んでいったことを物語っている。

このように、「見える化」は、2000年代半ばから社会的に認知され、2010年代にかけて普及し、安定して使用されている。では、この時期に「見える化」がどのようなジャンルに(5.2.1)、どのような文脈で(5.2.2)使用されていたかを順に見ていく。

## 5.2 「見える化」の使用詳細

### 5.2.1 「見える化」の使用ジャンル

OYAにおける2004年から2024年までの「見える化」の用例を雑誌別に分け、ジャンルを付した。ジャンルごとに分ける際、日本雑誌広告協会公開の「雑誌ジャンル・カテゴリ区分一覧」を参照し、そこに記載がないものは、OYAの雑誌ジャンルの区分にしたがった。表2は、「見える化」が10件以上見られた14の雑誌を抽出した結果である。

表2 OYAにおける「見える化」(10件以上)のジャンル別用例数

ジャンル [雑誌数]	雑誌名 (用例数)
ビジネス・マネー誌 [9]	日経ビジネス (29)、週刊東洋経済 (25)、プレジデント (24)、日経ビジネスアソシエ (24)、THE21 (22)、週刊エコノミスト (21)、財界 (20)、週刊ダイヤモンド (18)、経済界 (16)
経済 [1]	激流 (13)
業界・技術専門誌 [1]	地上 (11)
食・グルメ情報誌 [1]	オレンジページ (47)
一般(週刊)誌 [1]	AERA (20)
女性(週刊)誌 [1]	女性セブン (11)

表2より、「見える化」が10件以上見られた14の雑誌のうち、9つの雑誌がビジネス・マネー誌であることが分かる。さらに、「激流」「地上」はそれぞれ、流通業界、農業界での専門誌であることを考慮すると、「見える化」は特定の業界分野で使用される専門用語として普及していると考えられる。この点は、第4節で示した「見える化」発生期の使われ方と同じであり、「見える化」は、専門分野において重要な概念と捉えられているのである<sup>7</sup>。

一方、「見える化」が10件未満であった雑誌を抽出するとどのようなであろうか。表3は、「見える化」が10件未満であった雑誌を表2と同様に、ジャンルで区分した結果である。

雑誌数のジャンルの多い順に、「女性誌」「一般誌」「総合誌」「経済」「男性誌」と続く。表2にも見られた「ビジネス・マネー誌」「経済」「業界・技術専門誌」も確かにあるが、表2と比べて偏りは少なく、総合誌や一般誌、男性誌や女性誌などの幅広いジャンルで「見える化」が用いられていることが窺われる。つまり、「見える化」は、特定の業界分野に限定されない一般用語としても使用されるに至っている。3.3で挙げたように、『大辞泉』(第2版)『デジタル大辞泉』の補説に「ビジネス用語としては「見える化」という記述が見られたが、実態としては一般用語としても使用されていると言える。

このように、「見える化」は、個々の雑誌に見られる用例はそこまで多くないが、使用の広がりが見取れる。使用の広がりを持ちつつあることは、ジャンルを超えて、一般用語として使われていることを示している。専門用語として発生した「見える化」は、専門用語の枠を超えて、他のジャンルに使用が派生したのである。このような流れは、「知識の常識化」によって専門用語が一般用語化するという指摘(国立国語研究所1981:21)や漢語「透視」の展開を考察し、一般語用法と専門語用法を持つと指摘した奥山(2023)と重なる。ただし、漢語だけでなく、混種語にもこの流れが見られると指摘した点に、本稿の独自性がある。

<sup>7</sup> オレンジページに47例見られるが、1例を除き、「話題のアレをざっくり見える化! 1分で解説しまSHOW」という特集(全46回)の見出しである。



表3 OYAにおける「見える化」(10件未満)のジャンル別使用数

ジャンル [雑誌数]	雑誌名 (用例数)
女性・女性誌 [14]	日経ウーマン (6)、クロワッサン (5)、女性自身 (4)、週刊女性 (4)、LEE (2)、an・an (2)、with (1)、ELLE JAPON (1)、ハルメク (1)、PHPカラット (1)、毎日が発見 (1)、婦人公論 (1)、pumpkin (1)、婦人画報 (1)
一般誌 [11]	サンデー毎日 (8)、週刊ポスト (8)、SPA! (6)、週刊朝日 (5)、週刊文春 (3)、ニューズウィーク日本版 (3)、週刊新潮 (3)、週刊現代 (2)、アサヒ芸能 (2)、週刊金曜日 (2)、週刊プレイボーイ (1)
総合 (月刊・情報) 誌 [9]	潮 (6)、文藝春秋 (4)、Voice (3)、リベラル・タイム (2)、ソトコト (2)、SAPIO (2)、新潮45 (1)、中央公論 (1)、クーリエ・ジャパン (1)
経済 [9]	フォーブス日本版 (4)、フォーブスジャパン (4)、月刊BOSS (3)、月刊ペンチャー (2)、ZAITEN (2)、国際商業 (1)、実業 (1)、ZAITEN (1)、コンビニ (1)
男性 (ヤングアダルト) 誌 [5]	ターザン (6)、Pen (2)、宝島 (1)、サーカス (1)、ゲーテ (1)
業界・技術専門誌 [4]	宣伝会議 (5)、広報会議 (4)、編集会議 (1)、宣伝会議別冊 (1)
ビジネス・マネー誌 [4]	日経トップリーダー (4)、週刊エコノミスト臨増 (1)、日経ビジネス臨増 (1)、経済界別冊 (1)
人生 [4]	人間会議 (3)、BIG TOMORROW (2)、ほんとうの時代 (1)、清流 (1)
自然科学・科学・科学誌 [3]	環境会議 (4)、Newton (1)、日経サイエンス (1)
健康・健康誌 [3]	日経メディカル (3)、NHKきょうの健康 (2)、からだにいいこと (1)
レジャー・旅行 [3]	レジャー産業資料 (3)、ノジュール (2)、トランヴェール (1)
モノ・トレンド情報誌 [2]	日経トレンドイ (8)、DIME (4)
マタニティ・子育て誌 [2]	プレジデントファミリー (7)、AERAウィズ・キッズ (2)
生活情報・生活実用情報誌 [2]	家の光 (5)、あるじゃん (1)
業界・PR・広報 [2]	ミット (3)、ABC (1)
食・グルメ情報誌 [2]	レタスクラブ (3)、レタスクラブ臨増 (1)
広告 [2]	プリール (1)、広告 (1)
タウン・地方 [2]	島へ。 (1)、東京人 (1)
学術・教育 [1]	はるか・プラス (2)
美術 [1]	AXIS (2)
写真週刊誌 [1]	FLASH (1)
スポーツ [1]	アルバトロス・ビュー (1)
ビューティ・コスメ誌 [1]	美ST (1)
料理 [1]	料理王国 (1)

### 5.2.2 「見える化」の対象語

「見える化」が使われる文脈を「見える化」の取る対象に注目して考察する。OYA で得られた用例のうち、文脈から対象語の判断ができない 150 例を除外し、対象語の出現が多い順に並べた。表 4 は、出現件数が 3 件以上のものを抽出し、『分類語彙表増補改訂版』の部門によって分類した結果である。『分類語彙表増補改訂版』に記載のない「食の流れ」「CO2」「やること」「スキル」はそれぞれ、「流通」「二酸化炭素」「タスク」「技術」で分析した。

表 4 分類語彙表一部門による分類と語数 (3 件以上)

部門	異なり語数	延べ語数
人間活動ー精神および行為	16	73
抽象的關係	6	23
自然物および自然現象	2	7
生産物および用具	1	3

表4より、異なり語数、延べ語数ともに「人間活動ー精神および行為」が最も多い。それに次いで「抽象的關係」「自然物および自然現象」「生産物および用具」が続く。最も語数の多い「人間活動ー精神および行為」に比べて、「抽象的關係」は異なり語数、延べ語数がともに半分以下、「自然物および自然現象」「生産物および用具」は異なり語数、延べ語数がともに8分の1以下であり、「人間活動ー精神および行為」の占める割合が多いことが分かる。

次に、「見える化」の対象語を『分類語彙表増補改訂版』の中項目により分類した結果を表5に示す。

表5 分類語彙表ー中項目による分類と語数 (3件以上)

	中項目	延べ	異なり
人間活動ー精神 および行為	心	問題 (8)、睡眠 (4)、課題 (3)、思考 (3)	4
	言語	情報 (6)、やること (3)	2
	生活	仕事 (4)	1
	行為	スキル (3)	1
	待遇	経営 (4)、財政 (3)	2
	経済	家計 (11)、お金 (8)、収支 (4)、支出 (3)、コスト (3)	5
	事業	業務 (7)	1
抽象的關係	類	成果 (3)	1
	様相	リスク (4)	1
	作用	食の流れ (7)、改革 (3)	2
	時間	時間 (3)	1
	量	すべて (3)	1
自然物および 自然現象	自然	放射能 (3)	1
	物質	CO2 (4)	1
生産物および用具	機械	冷蔵庫 (3)	1

表5より、「人間活動ー精神および行為」のうち、「経済」「心」に偏っていることが分かる。度数の多い順に、〈度数11〉「家計」、〈度数8〉「お金」「問題」、〈度数7〉「業務」「食の流れ」、〈度数6〉「情報」と続く。「人間活動ー精神および行為」に分類されるのは、表5に示す通り、「経済」を除き、抽象物であり、その例として(19)(20)(21)が挙げられる。

- (19) 「夫婦の財布は別々」は月6万円損をする！ 家計を“見える化”できる「家族財布」なら貯められます ※共働き夫婦の家計（「女性自身」(女性誌) 2019年9月3日）
- (20) 経済超入門 世界共通の病は需要不足 先進国を覆う構造問題を見える化 ※回復傾向にある世界経済・日本経済、浮上する出口戦略問題  
（「週刊東洋経済」(ビジネス・マネー誌) 2010年4月24日）
- (21) AGRI-MARKETING 食の流れを見える化 流通ウォッチャーの目 なぜあの青果卸は廃業に至ったのか  
（「地上」(経済) 2023年1月）

「見える化」は対象語に抽象物を取ることが多い傾向にあるが、一方で、(22)の「冷蔵庫」のように、具体物を対象語に取る例まで見られる点が興味深い。また、具体物と抽象物の両面を持つのが(23)に示す「お金」である。「お金」は紙幣や硬貨という具体的な形を持つ側面と、交換手段としての機能を持つ抽象的な側面に基づいているからである。

(22) 食品ロス&電気代削減で年10万円得する！ 冷蔵庫“超”整理術 ※冷蔵庫内の見える化、野菜寿命の延長、冷凍庫の整理と冷凍術

(「女性自身」(女性誌) 2024年4月16日)

(23) スマホとのつきあい方 18回 家計簿アプリ 手軽にお金を「見える化」する  
レシートを撮影するだけで自動登録 ※アプリ「Zaim」、レシートを撮影する方法

(「pumpkin」(女性誌) 2023年3月)

これらから、2000年代以降の「見える化」は、「主に抽象的な事物・状況を明確に示すようにすること」を意味すると考えられる。初期の「見える化」は問題や課題点といった限定的な対象を取っていたが、2000年代以降では、「家計」「問題」「時間」などのより広い抽象的な概念、さらには「お金」「冷蔵庫」といった具体物を対象に取ることができるようになった。「見える化」の使用の広がりとともに、対象語の範囲も広がっていったのである。

### 5.3 「見える化」に類する表現の広がり

趙(2016)は、「見える化」の類例として、「理解る化」「直せる化」「言える化」を挙げ、これら以外に見られないとしているが、Googleにおいて完全一致検索して確認できた例、OYAで「見える化」と共起していた例を含めると、可能動詞「使える化」「できる化」「聞ける化」「触れる化」「読める化」「言える化」、可能動詞否定形「見えない化」の使用例が確認された。いずれも「見える化」と共起しない単独例もGoogleにおいて複数見られる。

(24) 私たちは、データの「見える化」ではなく、「使える化」を実現する会社。

(株式会社ミルプラトー(2016年5月9日設立)会社概要<https://1000plateaux.com/about/>)

(25) 「知的なムダ」を排除する 成功法則の「見える化」と「できる化」

(「経済界」(ビジネス・マネー誌) 2016年1月26日)

(26) 映画評を超えた現代論 「天皇」映画編(上) “映画スター” 天皇の「見える」化と「見えない」化 ※フィルムの中で天皇はどう描かれ・描かれなかったか、天皇の存在意義や天皇制を考察 (「サンデー毎日」(一般誌) 2018年2月4日)

(27) 世界一効率のいい時短トレ 話題のHIIT 攻略BOOK このスマートウォッチ&アプリでHIITを見える化・聞ける化 (「ターザン」(男性誌) 2021年4月8日)

(28) そこで思いついたのが「立体化」です。それもバーチャルではなく、本当のモノで。

「見える化」からさらに踏み込んで「触れる化」と言ってもよいでしょう。(後略)

(「専門家がつくった《触れる》環境研究とは? 「3Dふくしま」のここがスゴイ!」

2022年4月22日 <https://gendai.media/articles/-/94533?page=1&imp=0>)

(24)の「使える化」は、情報を実際に活用することを表している。(25)の「できる化」は、「見える化」によって明らかになった成功法則を、実践できる状態にすること、(26)の「見えない」化は、天皇の存在を隠すことという意味である。(27)の「聞ける化」は、聴覚を通じて情報を表示することであると考えられる。(28)の「触れる化」は、「見える化」から進んで、実際に触覚を通して体験することを表現している。「見える化」は視覚を基にしているが、(27)(28)の「聞ける化」「触れる化」は視覚以外の感覚を体験できるようにすることを意味している。

さらに、可能動詞以外の和語動詞、すなわち「知らせる」（使役形）、「気づく」「減らす」が「化」の前に前接する例も見られた。(29)は「減らす化」の例である。変化を表す動詞に「化」がついており、「化」のもつ変化の意味が薄れていると言える。

- (29)「減らす化」では、エネルギーのムダ使いをなくしていく「省エネ」と再生エネルギーをいえるようにする「再エネ」を行います。  
(株式会社ソミックマネジメントホールディングスその①「気候変動とカーボンニュートラル」編 <https://www.somic-group.co.jp/dream/detail/106>)

このように、「見える化」に類する表現の例を見てきた。(24)から(29)は、「見える化」という概念を基にした新たな表現であり、裏を返せば、「見える化」の普及が新規表現を生み出す動機となっていることを示している。これらの表現から、和語動詞が前接する「化」が受け入れられつつある、つまり通俗化しているとも捉えられる。「化」は、趙(2016)の「可能な状態への変化」からさらに進んで、(29)のように、「可能な状態」を表す用法まで用法が拡大していると言えよう。

## 6. まとめ

本稿では、新語「見える化」の使用動態について分析を行い、新語の発生と普及過程を明らかにした。第4・5節の調査・分析を基に、「見える化」の使用増加要因をまとめる。

「見える化」は製造業における専門用語として1990年代に発生した(第4節)。2000年代に入ると、「見える化」は社会的に認知され、2010年代にかけて普及していった(5.1)。2000年代では、「見える化」は、発生期と同様に、専門用語としての使用も見られるが、他のジャンルにおける使用も見られ、使用範囲が拡大し、限定的なものしか取れなかった対象語も広範化していった(5.2)。さらに、「見える化」の普及に伴い、「化」の用法が通俗化し、単なる可能な状態(「(できる)ようになる」)を表すようになりつつあると考えられる(5.3)。

以上より、「見える化」の使用増加要因において特記すべき点として、本稿では、第一に、「特定のジャンルにおける専門用語として発生し、他のジャンルに使用が広がっていく」点、第二に、「対象語が限定的なものから、より広範なものを取るようになる」点、第三に、「化」の用法が通俗化している」点の三つの側面を指摘した。

上述した要因を端的に表すと、「ジャンルの多様化」「対象語の広範化」「接尾辞の通俗化」となる。「見える化」だけでなく、他の語においても、これらの3つの要因が適用できるものがあるかの検証については、今後の課題としたい。

### 【参考文献】

- 遠藤功(2005)『見える化 強い企業をつくる「見える」仕組み』東洋経済新報社。  
大谷鉄平(2021)「見出し文で商用的にはたらく語句—雑誌記事見出しの場合—」『北陸大学紀要』50,pp.117-132。  
岡田祥平(2022)「「地雷」小考」『国語語彙史の研究』41,pp.302-283。  
奥山光(2023)「漢語「透視」の展開—専門語と一般語の関係に着目して—」日本語学会2023年度春季大会予稿集。  
国立国語研究所(1981)『専門語の諸問題 国立国語研究所報告68』秀英出版。  
国立国語研究所編(2004)『分類語彙表増補改訂版』大日本図書。

- 今野真二 (2019) 『日日是日本語』 岩波書店.
- 自由国民社編 (2008-2015) 『現代用語の基礎知識』 自由国民社.
- 曾睿 (2015) 「接辞性字音語基「化」の位置づけ」『国語学研究』 54,pp.196-209.
- 田窪行則 (1986) 「一化」『日本語学』 5:3,pp.81-84.
- 谷口悠 (2024a) 「新語「自分ごと」の使用状況と増加要因」 修士論文.
- 谷口悠 (2024b) 「「自分軸」の使用から考える新語発生要因」 第 61 回表現学会全国大会.
- 趙麗君 (2013) 「漢語接尾辞「化」の成立と展開」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』 35,pp.89-110.
- 趙麗君 (2016) 「接尾辞「一化」の新用法の成立と展開」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』 42 ,pp.29-47.
- 新野直哉 (2022) 『『読売新聞』記事に見る大正 14 年の新語・集団語—「新聞記事データベース」活用の一例として—』『国語語彙史の研究』 41,pp.344-325.
- 野村雅昭 (1978) 「接辞性字音語基の性格」『電子計算機による国語研究IX』 pp.102-138.
- 水野義道 (1985) 「接尾的要素「一性」「一化」の日中対照研究」『待兼山論叢 日本学篇』 19,pp.3-19.
- 毎日新聞校閲センター (2023) 『校閲記者も迷う日本語表現』 毎日新聞出版.
- 山下剛 (2023) 「「見える化」と統合—中小企業におけるその可能性—」『商工金融』 73:9,pp.4-22.
- 米川明彦 (2019) 『平成の新語・流行語辞典』 東京堂出版.

〈関連 URL〉 いずれも 2024 年 8 月 6 日最終確認

- 朝日新聞社「朝日新聞クロスサーチ」 <https://xsearch.asahi.com/>
- 大宅壮一文庫「WebOYA-bunko」 <https://www.oya-bunko.com/>
- 国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」  
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>
- 国立国語研究所「昭和・平成書き言葉コーパス」 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/shc/search>
- 国立国会図書館「国立国会図書館デジタルコレクション」 <https://dl.ndl.go.jp/>
- 日本雑誌広告協会「雑誌ジャンル・雑誌 web 検索」(2024 年 2 月版雑誌ジャンル・カテゴリ一覧) [https://www.zakko.or.jp/planning/m\\_search#cat\\_s01](https://www.zakko.or.jp/planning/m_search#cat_s01)
- 文化庁 (2022) 『令和 3 年度「国語に関する世論調査」の結果の概要』  
[https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/kokugo\\_yoronchosa/pdf/93774501\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/93774501_01.pdf)
- 道浦俊彦とっておきの話「ことばの話 3458 「気づき」」  
<https://www.ytv.co.jp/announce/kotoba/back/3401-3500/3456.html#3>
- 道浦俊彦とっておきの話「ことばの話 3635 「見える化」」  
<https://www.ytv.co.jp/announce/kotoba/back/3601-3700/3631.html#5>